

学長就任に対する抱負について

勤務先等	医歯薬保健学研究院	氏名	越智光夫
<p>「100年後に世界で光輝く大学であるために」</p> <p>社会は大学教育を含め、大きな変革の時期の真ただ中であるといえます。教育は国家 100 年の大計であり、未来から振り返った時、2015 年からの大学の運営方針は間違いなかったといえるようなかじ取りをノーブレスオブリージュの精神で行って参りたいと思います。大学の多様性を維持しながら、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神に則り、教育研究のためのベストな環境作りに取り組みます。</p> <p>広島大学の現状と今後の方向性</p> <p>文部科学省は、平成28年度以降の第3期においては「持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学」を国立大学が目指すあり方として改革プランを推し進めます。各大学の機能強化の方向性として、1) 世界最高の教育研究の展開拠点、2) 全国的な教育研究拠点、3) 地域活性化の中核的拠点が示されました。その中で浅原学長を始めとした執行部のリーダーシップのもと広島大学は昨年「研究大学強化促進事業」支援対象機関に選定され、今年度は「スーパーグローバル大学創成支援」において「タイプA（トップ型）」の13大学の一つに採択されました。これは広島大学の構成員としては名誉なこと間違いありません。しかし、この成果は、大学全体が国と国民に対して大きな役割と責務を引き受けたと認識すべきであります。目的を果たすために、今後一層計画的な教育研究組織の再編成に加え、国際化の進展が不可欠であります。</p> <p>教育と国際化</p> <p>1999年のボローニャ宣言以降、高等教育の質の保証が国際的にも問われています。専門性が国際的にも通用する教育とともに、人間性豊かで国際的にも良好な人間関係を構築できる幅広い学識を有する人材の育成には、教養教育の充実が不可欠であると確信しています。広島大学には全国に誇るべき、教養教育の実績と伝統があり、この業績を十分に活かして、教養教育一層の充実のため、地域における公立、私立と共同でより深みのある教育センターを立ち上げたいと思っています。学生、殊に文系の学生には社会とのインターフェイスが必要であり、文学部、法学部、経済学部等の文化系学部は広島市でも教育が行えるように、東千田キャンパスを活用した発展的な計画を進めるべきであります。</p> <p>国際性と教育制度改革は大学改革と密接な関連性があります。国際化の推進には海外からの留学生の受け入れの増加、早期の海外留学の促進（単位互換の推進、英語教育の充実(外国人教員、英語に堪能な日本人教員の雇用と充実(サバティカルの活用))）が必要ですが、そのためには教育制度改革を進めるべきであります。一方で英語教育推進とともに、中国、インドネシア、韓国、ベトナム等の多くのアジアからの留学生に対して、なぜ日本を選択し、近隣の英語圏であるオーストラリア、ニュージーランド、シンガポールを選ばなかったのか等の詳細な意識調査も必要です。現在、私はインドネシア教育文化省高等教育総局から指名され、日本の代表として全国の留学生のお世話をしています。留学生の数の倍増とともに、かれらが日本を留学先として選らんだ理由を裏切らない教育方法や教育内容の充実化も忘れないようにすべきでありましょう。英語教育の充実に加え、日本語教育の実践には資金を十分に投入しても行っていくべきであると考えます。彼らは、将来母国における日本の外交官であります。OB、OG との緊密な連携を行えるような海外校友会の構築ですが、そのためにもホームページの充実など海外への情報発信に力を入れたいと考えています。Hiroshima, Hiroshima University の知名度はまさに海外においては東京、京都に次ぐものであり、この利点を活かしたホームページの作成等の広報活動は専門家を雇用してでも行います。</p> <p>研究と国際化</p> <p>私は、医学医療研究を通し、過去 20 年間にわたり、100 を超える海外招待講演を行い、国際的な幅広いネットワーク構築に努めてまいりました。この中で、各国の大学指導者達から多様な大学制</p>			

度の利点や課題を直接学びました。この経験を一層大学のために役立てたいと思っています。

広島大学の特徴を活かし、強みをさらに強化する重点領域では、国際的に活躍する教員の雇用も重要ですが、多くの日本の大学や海外の大学も同じような考え方で戦略を練っているため、それほど簡単なものではありません。因みにシンガポールの給与は日本の約 2 倍です。そういう意味からは承継教員としての雇用ではなく、3 か月、6 か月のサバティカルを利用した雇用が現実的であり、そのためにも各教員の海外のネットワークを活用して、著名な海外の先生方のサバティカルの時期を調べておく必要があります。そのような機会を利用し、海外の大学との新たな教育研究組織づくりに繋げていきたいと思っています。例え、世界的に著名な方を数名運よく雇用できてもそれで目標が達成できるわけではないことは明らかであります。現在の教員職員が一体となり、Achievement-motivated Key Performance Indicators に沿い、担当授業、博士人材育成、SCI 論文数等にそれぞれの立場で今まで以上の努力を行う以外に道はありません (**Les moyens du bord**)。そのための研究支援体制の充実には、まず技術職員の確保策を立て、誠実に取り組みたいと思います。各部局が同じように伸びていくのが理想ですが、ただそれぞれの部局で強み、弱みがありますので、それぞれの強みを活かし、**各々の弱点を補完していく意識の共有化**が必須です。今の改革には競争原理が持ち込まれてはおりますが、地域の各大学との戦いでもなければ、ましてや学内の競争を煽るものでもありません。

外部資金獲得と産学官連携の充実

今後も大学への運営費交付金の増額は期待できる状況にはありません。科学研究費をはじめとした競争的資金が大学運営の基盤に不可欠であります。大型資金のみでなく、申請できる全ての競争的資金の獲得を戦略的に実施するために大学経営企画室で情報収集と周知、申請に有利な条件の整備等を行い、申請書の企画段階から URA 参加等による支援体制の整備を進めて参ります。

私は、**世界に先駆け 3 次元軟骨培養移植術**に成功し、北海道大学、東京医科歯科大学等と共同治験を実施しました。企業との連携による 13 年間の実績を積み上げ、健康保険で治療費が支払われる治療法として認められました。この様な例は、外科系では極めてまれで、この成果に対し、文部科学大臣賞を始め、国内外の多くの賞が与えられ、国際的にも高く評価されました。産学官連携に基づく研究や資金の獲得には多くの経験がありますので、この経験を活かしてこの分野の開拓を大学で積極的に行って参ります。一方で大学の基金に関しては、継続的な同窓生からの小口の募金活動に加え、国際平和都市ヒロシマに在る大学の知名度を生かした、**海外からの大型の募金誘致**にも積極的に取り組んでいきます。

最後に

私は、平成 19 年から平成 23 年までは広島大学病院長を務め、機会にも恵まれ、病院外来棟新築、レジデントハウス新築、女性職員支援のためのたんぼぼ保育園拡充を行うことができました。また、平成 23 年 3 月 11 日に生じた東日本大震災・福島第一原発事故に対し、大学病院の早急な対応が求められ、病院長としてリーダーが直ちに決断することの重要性を痛感いたしました。さらに平成 20 年から平成 24 年までは理事(医療担当)として、それ以降は学長特命補佐(北口開発担当)として大学運営にも携わり、現在に至っております。この期間に培われた**危機管理能力と経営感覚**を活かし広島大学の発展に寄与していきます。

学生が広島大学で学べてよかった、教職員が広島大学で働けて良かったといえるような環境作りを行い、100 年後世界で光り輝く大学の一つであるよう、教職員の声に耳を傾けながら **Think globally, act locally の精神**で誠心誠意取り組んで参ります。

ご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

※ フォントは MS 明朝 10 ポイント、行間隔は 14 ポイントとし、3,000 字程度で記載してください。